

東北海道現代俳句協会会報

第13号

発行人・石川 青狼
編集人・鮎橋 郁香
令和四年一月十日

『ま ず 一 歩』



東北海道現代俳句協会 会長 石川 青狼

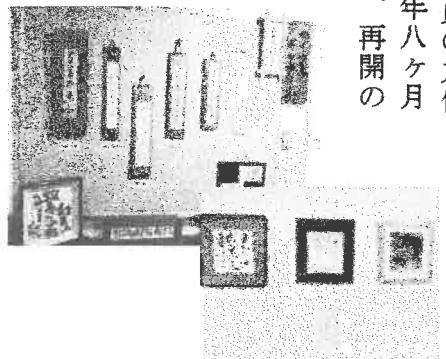
令和四年の幕開けです。皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年もコロナで明け、コロナで暮れた一年であります。昨年末には新変異株「オミクロン株」感染報道に落胆しながら、三回目のワクチン接種や飲み薬がようやく特例承認されたことがいくらかの朗報となりました。

コロナ禍の長期化と重なり、釧路では日本製紙株式会社

釧路工場の紙・パルプ事業撤退や赤潮の発生による甚大な被害があり、地域経済も厳しい状況ではありますが、この変革の時代をしつかり見据え、頑張つて乗り切つて行かなけばと思つています。

当協会の昨年度の取り組みでは、五年に一度の合同句集「東北海道現代俳句 第六集」が、会員三十七名の参加を頂き二月に発刊。十一月には、一人の会員による鑑賞文を別冊会報にて掲載いたしました。感謝申し上げます。

また四月には、コロナ禍の新たな企画として現代俳句協会事業部の要請で「地区協会長インタビュー」事業に参加。



◆釧路ブロック恒例の墨書き展を、

プラザさいわいにて十月二二日(

十一月十八日まで開催、会員の力作が並んだ。またこの日は一年八ヶ月振りの対面句会が開催され、再開の喜びの声が挙がっていた。

なお句会参加希望者は

事務局まで連絡を。

出品会員 十三名
作品数 十六点

- ・石川・飯沼・小飼
- ・斎藤・寺田・中島
- ・中村・西村・芳賀
- ・村川・吉田・吉野・鮎橋

◆今年の第三十二回伊藤園「おーい お茶」新俳句大賞の発表が十月二十四日にあり、脇本千尋さんが佳作特別賞に入賞。全投句数二〇五万句を超える内、ボトルのパッケージに作品の載る一九八六句中の一句となつた。おめでとうござります。

てんと虫私を起点に高く飛ぶ

脇本 千尋

また、もう一步の佳作賞に西村奈津さんが入賞した。

春深し君抱くように米五キロ

西村 奈津

改めまして、心よりご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

▼令和三年 釧路現代俳句会作品より

おでん食うごつき手が因炭砲話
梅雨寒の妻にせがむは熱めの茶

虎杖の茂り境界のようである

六月には、第三十回北海道現代俳句大会を、現代俳句協会会長中村和弘氏を講師にお迎えして帯広での開催予定でしたが集会を断念。一年続けて紙上での大会となりました。今年の旭川大会は是非開催されるよう切に願っています。

そして、釧路ブロックでは十月より、待望の対面句会をコロナ禍で閉塞している今だからこそ創意工夫をしながら、もう一步踏み出し、チャレンジしてみましょう。そして、俳句を楽しみましょう。会員皆様のご健勝ご健吟を祈念し、巻頭のご挨拶をいたします。

新年度行事予定

◎第二二回 東北海道現代俳句協会総会

(一月十七日・帯広)

◎第三一回 北海道現代俳句大会 (六月十九日・旭川)

◎第二八回 東北海道現代俳句大会 (六月二六日・釧路)

◎第九回 東北海道現代俳句協会賞 作品募集 (九月)

同 選考会議 (十一月)



◆ 永年、釧路俳壇のみならず現代俳句を中心全国的にも活躍をされた福島昌美さまが八月九日、急逝されました。八月十五日の新聞にて計報を知り石川会長と鮎橋が弔問、当協会名で供花を贈らせて頂きました。

奥様のお話では、八日は夕暮れまで草取りに精を出し、夜に「少し寒いな」と言つてお休みになつたまま、九日朝には亡くなれていたとのことです。行年八九歳でした。ここ数年は怪我をされたり体調がすぐれないことが多いようでしたが、釧路現代俳句会には毎月必ず投句してください、北海道現代俳句大会、大とかち俳句賞全国俳句大会や「釧路春秋」(年一回発行)にも積極的に出句しておられました。また二〇二〇年九月には釧路文学館主催のイベント「炭鉱の文化、炭鉱の文学」に出演、太平洋炭礦在職時の俳句活動についてお話をされたのはまだ記憶に新しいことです。

改めまして、心よりご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

◆第十九回大とかち俳句賞全国俳句大会 (十月)

〈課題句〉 (課題:「山」一切)

優秀賞、星野高士特選

昆布干す母の背にある幾山河
同 佐藤宣子・石川青狼特選
山盛の馬糞こぼして耕せる

佳作、辻脇系一特選

裏山にジョッピンカケタ方青時雨
同 桂せい久・竹内直治特選
農の手のひとつと数ふ案山子かな

宮坂静生特選

山の声ゆつくりと聴く夕端居

石川青狼特選

ラマーズ法で産気づいたね山桜
かすみ晴れ十勝の山の男つ振り

佐藤宣子特選

月涼し山湖に映る兜太の句
夏寒し博士のような山羊の顔

十河宣洋特選

ひと声は星へ祈りの山親爺

都賀由美子特選

春雨やはたほたにじむ山の色

石川青狼特選

山の声ゆつくりと聴く夕端居

石川青狼特選

ラマーズ法で産気づいたね山桜
かすみ晴れ十勝の山の男つ振り

佐藤宣子特選

月涼し山湖に映る兜太の句
夏寒し博士のような山羊の顔

十河宣洋特選

ひと声は星へ祈りの山親爺

都賀由美子特選

春雨やはたほたにじむ山の色

石川青狼特選

月涼し山湖に映る兜太の句
夏寒し博士のような山羊の顔

十河宣洋特選

ひと声は星へ祈りの山親爺

都賀由美子特選

春雨やはたほたにじむ山の色

石川青狼特選

月涼し山湖に映る兜太の句
夏寒し博士のような山羊の顔

十河宣洋特選

ひと声は星へ祈りの山親爺

都賀由美子特選

春雨やはたほたにじむ山の色

〈雑詠句〉
東北海道現代俳句協会賞
粥川青狼・橋本喜夫特選
白シャツや少年は砂漠の帆船
吉野喜代子

佳作、田湯岬特選

切株は何も答えず夏の雲
手花火や爺であること忘れをり
星野高士特選

同 竹内直治・田湯岬特選

白シャツや少年は砂漠の帆船
手花火や爺であること忘れをり
星野高士特選

佳作、田湯岬特選

切株は何も答えず夏の雲
手花火や爺であること忘れをり
星野高士特選

佳作、田湯岬特選

白シャツや少年は砂漠の帆船
手花火や爺であること忘れをり
星野高士特選

** 令和二年 わたしの一句 **

この一年、俳誌や句会に出した句、出さない句、
会員・準会員の渾身の一句をお楽しみください。

独活を抜く力あるからいきている
十勝野のアスパラ甘し婚近し
耕して村の入口開けてをく
触れたのは空耳ですか葦草
車椅子降りて手のひら春光る
春愁や準チヨコレートてふ表示

鈴木八駿郎
吉田 洋子
中島 土方
脇本 文子
大村富美子
よしげね弓
寺田 保子
吉野喜代子
村川三津子
飯沼 風華
清水 健志
西村 千尋
芳賀 知子
大沼惠美子

コロナ禍のやたらカナ文字まだら雪
LINE明滅相聞歌のよう春の夜は
私なら並びはしない谷地坊主
滋養滋養妣の声染む紫蘇を揉む
朴の花もはや下界に目もくれず
ふいご師とオルガニストと日雷
さざめけるラジオ中継夏の風
夕凪や今日のふたりは揮発性
証されぬ遺骨の行方沖縄忌
父の日の父ゐるやうに覗く部屋

鈴木八駿郎
吉田 洋子
中島 土方
脇本 文子
大村富美子
よしげね弓
寺田 保子
吉野喜代子
村川三津子
飯沼 風華
清水 健志
西村 千尋
芳賀 知子
大沼惠美子

コロナ禍のやたらカナ文字まだら雪
さざめけるラジオ中継夏の風
夕凪や今日のふたりは揮発性
証されぬ遺骨の行方沖縄忌
父の日の父ゐるやうに覗く部屋

鈴木八駿郎
吉田 洋子
中島 土方
脇本 文子
大村富美子
よしげね弓
寺田 保子
吉野喜代子
村川三津子
飯沼 風華
清水 健志
西村 千尋
芳賀 知子
大沼惠美子

明日は何色八月のトリアージ
マラソンや秋空の色移行せよ
山粧うのつべらぼうの紙人形
人住まぬ家のうしろに蚯蚓鳴く
そばがきや何か私に足りぬもの
年ごとに父の貌なり新走り
氏素性解き銀漢のひとかけら
熟柿食うきまつて分母に母がおり
卒塔婆の燃えて木の実の音となる
秋霖や母の寝息の細くなり
着ぶくれて老老介護笑もなし
獅子座流星群アブサンである
仏滅のうすき冬日をむさぼれる
神様の涎ともなう雲かな
コロナ禍の日々が煮詰まる冬林檎
こだはりや綿虫やたら殖やしるる
零下二十度心臓も星もガラス体
雪解零に頭差し出す少し叫ぶ
今生きて今日芳しき今朝の春
落葉松黄葉笑いだしたら止まらない

鈴木八駿郎
吉田 洋子
中島 土方
脇本 文子
大村富美子
よしげね弓
寺田 保子
吉野喜代子
村川三津子
飯沼 風華
清水 健志
西村 千尋
芳賀 知子
大沼惠美子

鈴木八駿郎
吉田 洋子
中島 土方
脇本 文子
大村富美子
よしげね弓
寺田 保子
吉野喜代子
村川三津子
飯沼 風華
清水 健志
西村 千尋
芳賀 知子
大沼惠美子

(会員作品は後記)

